

演習 I (6単位)	内田 享弘
-------------------	--------------

科目目的	講義で学習した専門的な知識に加えて、研究課題に関連する研究技術に関連する文献や成書の内容を学習することで、研究に必要な基本的な研究手技やデータ解析力を修得し、臨床現場を想定した課題解決能力や研究実践のための知識や技能の基盤を構築することを目的とする。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 関連文献や成書の情報から研究課題の実験方法の妥当性を説明できる。 2) 研究課題に関する成果・問題点を列挙できる。 3) 研究課題の成果の概略を纏め発表できる。
授業内容	研究課題について、幅広い視点から各種文献調査を行い、その結果を踏まえ、合理的な実験計画を作成・実施し、実験結果について正しく評価し、研究発表を行うという研究の各過程に関する基礎的な演習を通して、研究能力を醸成させる。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1) 研究課題の調査に関する演習：研究の主題となるテーマについて各種文献、成書等を参考に決定するプロセスに関して演習を行う。 2) 実験計画作成に関する演習：合理的でかつ、統計処理にも耐えうるプロトコルの立案の基本について演習を行う。効果的な予備試験、本試験の立案についても演習を行う。 3) 研究方法策定に関する演習：精密に正確に、かつ効率的に実験可能な試薬・機器の選択方法について演習を行う。当該研究（実験・調査）の妥当性判断に関しても演習を行う。 4) 研究（実験・調査）結果の解析・考察に関する演習：研究（実験・調査）結果について論理的に解析・考察、再実験・再調査の構築について演習を行う。 5) 論文作成、研究結果の公開(学会発表・討論会)に関する演習：論文作成、研究結果発表の仕方、討論の基本について、実際に発表演習を通して学習する。
授業方法	教員と情報交換を十分行い、実施する。
準備学習（予習・復習等）	関連分野についての基本的知識の収集や情報収集を行うこと。
評価方法	・平常点等(100点) 平常点等配点内訳：授業内容の1), 2), 3), 4), 5)は各20点 合計100点
地域との連携	
担当教員への連絡方法	臨床製剤研究室：研究管理棟4階
受講上の注意	

シラバスID : 143400040

演習Ⅱ（6単位）	内田 享弘
-----------------	--------------

科目目的	講義、演習Ⅰおよび論文作成研究の成果を踏まえ、研究論文調査や疫学調査を継続するとともに、研究課題の目的、実験方法、結果の解析、解釈についての妥当性を多角的に評価し、その研究結果を纏め、適切に発表し質疑応答できる技能を修得することを目的とする。
到達目標	1) 課題研究に関する成果・問題点を、関連する参考文献の内容や調査結果と総合的に関連づけて纏めることができる。 2) 課題研究の成果の概略を纏めて発表し、適切に質疑応答ができる。
授業内容	演習Ⅰの成果を踏まえ、研究課題について、幅広い視点から各種文献調査を行い、その結果に基づき合理的な実験計画を作成・実施し、実験結果について正しく評価し、研究発表を行うという研究の各過程に関する応用的な演習を通して、研究能力を効果的に醸成させる。
授業計画	1) 研究課題の調査に関する演習：研究の主題となるテーマについて各種文献、成書等を参考に決定するプロセスに関して演習を行う。 2) 実験計画作成に関する演習：合理的でかつ、統計処理にも耐えうるプロトコルの立案の基本について演習する。効果的な予備試験、本試験の立案についても演習を行う。 3) 研究方法策定に関する演習：精密に正確に、かつ効率的に実験可能な試薬・機器の選択方法について演習する。当該研究（実験・調査）の妥当性判断に関しても演習を行う。 4) 研究（実験・調査）結果の解析・考察に関する演習：研究（実験・調査）結果について論理的に解析・考察、再実験・再調査の構築について演習を行う。 5) 論文作成、研究結果の公開（学会発表・討論会）に関する演習：論文作成、研究結果発表の仕方、討論の基本について、実際に発表演習を通して学習する。
授業方法	教員と情報交換を十分に行い、実施する。
準備学習（予習・復習等）	関連分野についての基本的知識の収集や情報収集を行うこと。
評価方法	・平常点等(100点) 平常点等配点内訳：授業内容の1), 2), 3), 4), 5)は各20点、合計100点
地域との連携	
担当教員への連絡方法	連絡先・手段は、教員より連絡する。
受講上の注意	
卒業認定・学位授与の方針との関連	<p>1. 知識・理解 1-1「薬物治療学特論群」の科目では、個別化医療、薬物治療、化学療法、感染症治療、薬効・毒性評価に関する高度な臨床的知識を学び、その臨床的な意義と必要性を理解することで、臨床での課題解決能力・研究能力の基盤を作ることができる。</p> <p>1. 知識・理解 1-2「実践医療薬学特論群」の科目では、レギュラトリーサイエンス、健康予防栄養学、コミュニティファーマシー、医療保険制度、漢方処方に関する高度な知識を学び、その臨床的な意義と必要性を理解することで、臨床での課題解決能力・研究能力の基盤を作ることができる。</p> <p>2. 技能・表現 2-2「演習」を通じて、臨床現場を想定した課題解決能力や研究実践のための技能を備えている。</p> <p>2. 技能・表現 2-3「論文作成研究」は、「講義」・「演習」と組み合わせることで、相乗的な研究能力の向上を図ることができる。</p> <p>3. 思考・判断 3-1「講義」を通じて幅広い臨床分野において、新たな問題・課題を見出すことができる。</p> <p>3. 思考・判断 3-2「演習」を通じて幅広い臨床分野において、状況に応じた課題の解決への具体的方策を立案できる。</p> <p>4. 態度・志向性 4-1自ら医療現場等で想定される課題を見出し、積極的に問題解決を図る態度が涵養されている。</p> <p>4. 態度・志向性 4-2グローバルな視野に立ち、医療現場等で指導的役割を果たす自立した教育研究者の素地ができている。</p>

演習Ⅲ (6単位)	内田 享弘・高橋 幸一
------------------	--------------------

科目目的	講義、演習Ⅰ、Ⅱの成果や論文作成研究の成果を基に、関連した研究論文や疫学調査を詳細に調査し、確立した研究課題について、適切な実験・評価方法を用いて積極的に実験・調査を継続し、成果・課題を纏めるとともに、研究結果の解釈を正しく行う。その内容を発表し質疑応答に対応できる能力を定着させることを目的とする。
到達目標	1) 研究課題に関する成果が関連領域に及ぼす効果や汎用性について説明できる。 2) 研究課題の問題点について具体的な解決策を提案できる。
授業内容	演習Ⅰ、Ⅱの成果を踏まえ、研究課題について、幅広い視点から各種文献調査を行い、その結果を踏まえ、合理的な実験計画を作成・実施し、実験結果について正しく評価し、研究発表を行うという研究の各過程について専門性の高い演習を実施することで、高度な研究能力を醸成させる。
授業計画	1) 研究課題の調査に関する演習：研究の主題となるテーマについて各種文献、成書等を参考に決定するプロセスに関して演習を行う。 2) 実験計画作成に関する演習：合理的でかつ、統計処理にも耐えうるプロトコルの立案の基本について演習する。効果的な予備試験、本試験の立案についても演習を行う。 3) 研究方法策定に関する演習：精密に正確に、かつ効率的に実験可能な試薬・機器の選択方法について演習する。当該研究（実験・調査）の妥当性判断に関しても演習を行う。 4) 研究（実験・調査）結果の解析・考察に関する演習：研究（実験・調査）結果について論理的に解析・考察、再実験・再調査の構築について演習を行う。 5) 論文作成、研究結果の公開(学会発表・討論会)に関する演習：論文作成、研究結果発表の仕方、討論の基本について、実際に発表演習を通じて学習する。
授業方法	教員指導下で、主体的に演習課題を実施する。
準備学習（予習・復習等）	関連分野についての基本的知識の収集や情報収集を行うこと。
評価方法	・平常点等(100点) 平常点等配点内訳：授業内容の1), 2), 3), 4), 5)は各20点、 合計100点
地域との連携	
担当教員への連絡方法	連絡先・手段は、教員より連絡する。
受講上の注意	
卒業認定・学位授与の方針との関連	<p>1. 知識・理解 1-1「薬物治療学特論群」の科目では、個別化医療、薬物治療、化学療法、感染症治療、薬効・毒性評価に関する高度な臨床的知識を学び、その臨床的な意義と必要性を理解することで、臨床での課題解決能力・研究能力の基盤を作ることができる。</p> <p>1. 知識・理解 1-2「実践医療薬学特論群」の科目では、レギュラトリーサイエンス、健康予防栄養学、コミュニティファーマシー、医療保険制度、漢方処方に関する高度な知識を学び、その臨床的な意義と必要性を理解することで、臨床での課題解決能力・研究能力の基盤を作ることができる。</p> <p>2. 技能・表現 2-2「演習」を通じて、臨床現場を想定した課題解決能力や研究実践のための技能を備えている。</p> <p>2. 技能・表現 2-3「論文作成研究」は、「講義」・「演習」と組み合わせることで、相乗的な研究能力の向上を図ることができる。</p> <p>3. 思考・判断 3-1「講義」を通じて幅広い臨床分野において、新たな問題・課題を見出すことができる。</p> <p>3. 思考・判断 3-2「演習」を通じて幅広い臨床分野において、状況に応じた課題の解決への具体的方策を立案できる。</p> <p>4. 態度・志向性 4-1自ら医療現場等で想定される課題を見出し、積極的に問題解決を図る態度が涵養されている。</p> <p>4. 態度・志向性 4-2グローバルな視野に立ち、医療現場等で指導的役割を果たす自立した教育研究者の素地ができている。</p>

個別化医療学特論（2単位）	岡村 昇
---------------	------

科目目的	医薬品は平均的な患者に対して、最適になるよう開発されているが、適応する患者は多様性に富んでいる。したがって、有効性を確保しつつ、安全性を保つ薬物治療を行うには、個別化投薬が必要となる。本科目では、個別化投薬の意義と科学的な個別化投薬法について、原著論文を用いて学習することで、臨床の薬物治療に応用できる知識・技能を修得することを目的とする。
到達目標	1) 個別化投薬の概念およびその基盤となる機序、手段などについて説明できる。 2) 個別化投薬の臨床応用について討議できる。
授業内容	個別化投薬に必要な知識として、遺伝子診断、TDM、抗菌薬のPK/PDなどについて、原著論文等を題材としてを講義する。
授業計画	第 1回 個別化医療とは 第 2回 TDMの理論と実際 第 3回 遺伝子診断法とそれに基づく個別化医療（その 1） 第 4回 遺伝子診断法とそれに基づく個別化医療（その 2） 第 5回 抗菌薬のPK/PD 第 6回 抗がん剤の個別化投薬（その 1） 第 7回 抗がん剤の個別化投薬（その 2） 第 8回 抗がん剤の個別化投薬（その 3） 第 9回 個別化医療のためのバイオマーカー 第10回 個別化医療の実践
授業方法	双方向型授業
準備学習（予習・復習等）	講義の内容を実践に応用できるよう意識すること。
評価方法	・レポート[作品含む](100点)
地域との連携	
担当教員への連絡方法	臨床薬学研究室（薬学教育研究棟 4 階）
受講上の注意	臨床を意識して受講してください。

シラバスID : 143600080

臨床疾病治療学特論（2単位）	内田 享弘
----------------	-------

科目目的	代表的な疾患について、病態、代表的薬物治療、先端薬物治療、さらに病棟業務や患者管理の中で、薬剤師が薬学的介入を行うための基本的な知識と技能を修得することを目的とする。
到達目標	1) 精神疾患、感染症、糖尿病などの内分泌疾患、循環器疾患等の薬物療法に関する基本的な知識と薬物の効果・副作用について列挙できる。 2) 患者のバイタルサインなどを考慮して薬物の投与計画を策定する意義とその具体的方法を例示できる。
授業内容	各疾患についての症例、代表的な処方箋についての課題演習を中心とする。 内容は最近の処方・症例を用いたやや高度な演習課題である。
授業計画	10回の講義は、代表的疾患の薬物療法とその課題演習である。学習者と教員は情報交換しながら理解度を深めていく。双方向性の授業を目指す。 (感染症の薬物療法の講義・課題演習) 第1回 基本的な抗菌剤の薬物療法について 第2回 抗菌薬使用時のケーススタディー (内分泌疾患の薬物療法の講義・演習) 第3回 糖尿病・高尿酸血症の薬物療法、ケーススタディー (循環器疾患についての講義・演習) 第4回 心不全・不整脈の薬物療法、ケーススタディー 第5回 虚血性心疾患の薬物療法、ケーススタディー (精神疾患の薬物療法の講義・課題演習) 第6回 統合失調症の薬物療法 第7回 うつの薬物療法、ケーススタディー 第8回 不安障害に対する薬物療法、ケーススタディー 第9回 骨・関節疾患に関する薬物療法、ケーススタディー 第10回 アレルギー・免疫疾患に関する薬物療法、ケーススタディー
授業方法	講義と課題演習において教員と学習者が情報交換し、疑問点を共有しそれについてさらに学習する。
準備学習（予習・復習等）	薬物の基本的な薬理作用などについて予習・復習を行うことが講義の理解を深める。
評価方法	・レポート[作品含む](100点)
地域との連携	
担当教員への連絡方法	臨床製剤学研究室：研究管理棟4階
受講上の注意	

シラバスID：143600090

化学療法学特論（2単位）	三木 知博
---------------------	--------------

科目目的	がんの化学療法について、主ながん化学療法のレジメンをもとに効果・副作用について講義するとともに、抗がん剤の暴露や暴露防止のガイドラインなどについても講義を行い、化学療法についての全般的な知識を修得することを目的とする。
到達目標	1) 抗がん剤の効果・副作用を列挙できる。 2) 抗がん剤の副作用に対する対策について説明できる。 3) 抗がん剤の曝露対策を含めチーム医療の中での薬剤師の貢献について説明できる。
授業内容	臨床薬剤師にとって、がん化学療法の有効かつ安全な実施は、重要な責務である。本特論では、化学療法の意味について概説し、次に主な化学療法薬の投与レジメンの講義を行う。その後に各種臓器の化学療法について概説する。特に変遷の著しい乳がんや子宮がんなどについては詳しく触れたい。これら化学療法薬の効果、また副作用についても述べる。また患者支援のあり方についても講義する。最近特に問題となる抗がん剤の暴露については、定量的評価や暴露防止のためのガイドラインを紹介し、抗がん剤使用時の留意事項についても詳述する。
授業計画	第1回 化学療法とは 第2回 化学療法の治療法の選択 第3回 化学療法の薬理 第4回 肺癌の化学療法 第5回 消化管がんの化学療法 第6回 肝臓がんの化学療法 第7回 乳がん・子宮がんの化学療法 第8回 脳腫瘍の化学療法 第9回 白血病の化学療法 第10回 化学療法の副作用 ※ 135分の授業を10回行います。
授業方法	化学療法に関する文献（英語）を題材とし、受講者に文献を紹介してもらう中で、知識を深めていくようにする。
準備学習（予習・復習等）	本学では、45時間の学修時間を必要とする内容の授業時間に1単位を設定することを標準としています。学修時間には、授業時間だけでなく、予習・復習等教室外での自主学習も含まれます。今日臨床現場で使用される抗がん剤は、非常に増加している。それらについて、より良い治療に結び付けられるように系統的に分類・把握しておくこと。
評価方法	・レポート[作品含む](100点)
地域との連携	
担当教員への連絡方法	病態生理学研究室（薬学教育研究棟5階）
受講上の注意	
卒業認定・学位授与の方針との関連	（薬科学専攻 博士後期課程） 1. 知識・理解 1-3医薬品の適正使用のための「臨床系薬科学」に関する専門的な知識を有し、体系的に理解している。 2. 技能・表現 2-3「臨床系薬科学」に関する研究を行うための技能を有し、新たな展開を図ることができる。 3. 思考・判断 3-1「創薬系薬科学」、「生命系薬科学」あるいは「臨床系薬科学」分野の新たな問題・課題を見出すことができる。 3. 思考・判断 3-2「創薬系薬科学」、「生命系薬科学」あるいは「臨床系薬科学」分野の新たな問題・課題の解決への方策を提示できる。 （薬学専攻 博士課程） 1. 知識・理解 1-1「薬物治療学特論群」の科目では、個別化医療、薬物治療、化学療法、感染

感染症治療学特論（2単位）	野坂 和人・岡村 昇
----------------------	-------------------

科目目的	抗菌剤やワクチンといった微生物、ウイルスに対抗する手段が発達した現代においても、新興・再興の感染症が出現し、感染症克服は医療における重要課題である。本科目では、主要な感染症に対して病原体の性質を学び、患者の病態に基づいた治療法の必要性について理解することを目的とする。
到達目標	1) 感染症の原因となる病原体の特徴、伝播形式、宿主との相互作用を理解し、説明できる。 2) 個々の病原体による感染症治療法について説明できる。
授業内容	ヒトに感染症を引き起こす微生物、ウイルスの形態、生理学、生化学のほか感染症を引き起こすメカニズム、感染経路、治療法、抗菌剤について最新の知見を交えて学習する。
授業計画	第 1回 細菌、ウイルス、真菌、原虫の特徴（学部で学んだことの復習）（その 1） 第 2回 細菌、ウイルス、真菌、原虫の特徴（学部で学んだことの復習）（その 2） 第 3回 細菌感染症の病態とその薬物療法（その 1） 第 4回 細菌感染症の病態とその薬物療法（その 2） 第 5回 PKPDを考慮した抗菌薬による薬物療法 第 6回 ウイルス感染症の病態とその薬物療法（その 1） 第 7回 ウイルス感染症の病態とその薬物療法（その 2） 第 8回 真菌感染症の病態とその薬物療法（その 1） 第 9回 真菌感染症の病態とその薬物療法（その 2） 第10回 原虫感染症の病態とその薬物療法
授業方法	講義形式と、与えられた課題について各自が調べて発表・討論するゼミ形式で行なう。
準備学習（予習・復習等）	微生物、ウイルス、感染症、化学療法的基本的事項については予習をしておくこと。また、事前に課題を出すので各自で調べて他人に発表できるよう準備すること。
評価方法	・レポート[作品含む] (50点) ・平常点等(50点) 平常点等配点内訳：出席・発言等の授業への参加度およびプレゼンテーション内容
地域との連携	
担当教員への連絡方法	野坂 和人：生化学II研究室（研究管理棟3階） 岡村 昇：臨床薬学研究室（総合薬学教育研究棟4階）
受講上の注意	積極的に議論に参加すること。

シラバスID : 143600100

薬効・毒性評価学特論（2単位）	中村 一基・篠塚 和正・渡辺 伸明
-----------------	-------------------

科目目的	医薬品の前臨床試験、臨床治験、大規模臨床試験などのデータをもとに、それらの有効性および安全性について適確に評価するための知識や技能を修得することを目的とする。
到達目標	1) 薬効の強い代表的医薬品について例示し、その特徴や作用機序を説明できる。 2) 毒性が強い代表的医薬品について例示し、その特徴と毒性発現の機序を説明できる。
授業内容	臨床現場において極めて有用な医薬品、薬理作用機序に特徴のある医薬品、話題の新医薬品などを中心にそれらの有効性と安全性について講義する。
授業計画	以下の治療薬についてそれらの有効性および安全性について講義し、双方向授業を行う。 第1回 抗がん薬（分子標的抗がん薬など） 第2回 降圧薬（アンギオテンシンII AT1 受容体拮抗薬など） 第3回 心不全治療薬（アンギオテンシン変換酵素阻害薬など） 第4回 抗血栓薬（Xa 阻害薬など） 第5回 利尿薬（バソプレシン V2 受容体拮抗薬など） 第6回 脂質異常症治療薬（スタチンなど） 第7回 気管支喘息治療薬（IgE 阻害薬など） 第8回 糖尿病治療薬 [dipeptidyl peptidase 4 (DPP-4) 阻害薬、glucagon-like peptide 1 (GLP-1) アナログ、sodium-glucose co-transporter 2 (SGLT-2) 阻害薬など] 第9回 関節リウマチ治療薬 [tumor necrosis factor α (TNF α) 阻害薬、interleukin 1 (IL-1) 阻害薬、interleukin 6 (IL-6) 阻害薬など] 第10回 骨粗鬆症治療薬 [selective estrogen receptor modulator (SERM)、receptor activator of nuclear factor kappa-B ligand (RANKL) 阻害薬など] ※ 135分の授業を10回行います。
授業方法	パワーポイントあるいは担当者が独自に作成したプリントを使って講義するが、一方向授業にならないように必要に応じてディスカッションも交える。
準備学習（予習・復習等）	本学では、45時間の学修時間を必要とする内容の授業時間に1単位を設定することを標準としています。学修時間には、授業時間だけでなく、予習・復習等教室外での自主学習も含まれます。詳細は、授業の都度、別途連絡する。
評価方法	・レポート[作品含む](100点)
地域との連携	
担当教員への連絡方法	中村：薬理学Ⅰ研究室（研究管理棟2階） 篠塚：薬理学Ⅱ研究室（研究管理棟2階）
受講上の注意	
卒業認定・学位授与の方針との関連	（薬科学専攻 博士後期課程） 1. 知識・理解 1-3医薬品の適正使用のための「臨床系薬科学」に関する専門的な知識を有し、体系的に理解している。 2. 技能・表現 2-3「臨床系薬科学」に関する研究を行うための技能を有し、新たな展開を図ることができる。 3. 思考・判断 3-1「創薬系薬科学」、「生命系薬科学」あるいは「臨床系薬科学」分野の新たな問題・課題を見出すことができる。 3. 思考・判断 3-2「創薬系薬科学」、「生命系薬科学」あるいは「臨床系薬科学」分野の新たな問題・課題の解決への方策を提示できる。 （薬学専攻 博士課程） 1. 知識・理解 1-1「薬物治療学特論群」の科目では、個別化医療、薬物治療、化学療法、感染症治療、薬効・毒性評価に関する高度な臨床的知識を学び、その臨床的な意義と必要性を理解することで、臨床での課題解決能力・研究能力の基盤を作ることができる。 1. 知識・理解 1-3「薬物治療学特論群」と「実践医療薬学特論群」の講義内容を統合的に関連

健康予防栄養学特論（2単位）	池田 克巳
----------------	-------

科目目的	現在では多くの疾病について環境因子である栄養が関わっていることを包括的に理解する。
到達目標	疾病に栄養が関することの理解とそれを活用して新たな知識を得る能力を獲得する。
授業内容	生活習慣病に関する研究課題について栄養からの視点で考察し、予防メカニズムの解明と治療に関する研究について学ぶ。
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ① 健康と予防栄養に関する講義（1） ② 健康と予防栄養に関するレポート発表（1） ③ 現在の疾病である生活習慣病に関する講義（1） ④ 生活習慣病に関するレポート発表（1） ⑤ 疾病と過食に関する講義（1） ⑥ 疾病と過食に関するレポート発表（1） ⑦ 長寿と食事に関する講義（1） ⑧ 長寿と食事に関するレポート発表（1） ⑨ 遺伝と疾病に関する講義（1） ⑩ 健康と予防栄養に関した討議（1）
授業方法	講義とレポート発表
準備学習（予習・復習等）	予習として授業計画に記載されている語句について事前に調べておくこと。 返却されたレポートについてさらに深く学習すること。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート[作品含む](70点) ・平常点等(30点) 平常点等配点内訳：発表15点、課題15点
地域との連携	
担当教員への連絡方法	
受講上の注意	

シラバスID : 143400070

レギュラトリーサイエンス特論（2単位）	岡村 昇・中村 一基
---------------------	------------

科目目的	医薬品開発は、有効かつ安全な新規医薬品を迅速に患者に届けることが必要である。そのためにはその評価システムが重要となってくる。本科目では、医薬品の有効性、安全性を評価し、医薬品開発、承認審査および薬事行政の科学的基盤を理解することを目的とする。
到達目標	1) 医薬品開発のプロセスとそれに関わる承認審査、薬事行政などについて説明できる。 2) その背景となる科学的基盤について説明できる。
授業内容	基本的な医薬品開発のプロセスとそれに関わる承認審査、薬事行政などについて講義するとともに、その背景となる科学的基盤について講義する。
授業計画	<p>第1回 レギュラトリーサイエンス概論 第2回 医薬品開発のプロセスおよびその科学的基盤 第3回 医薬品開発のボトルネック 第4回 国際標準化の流れと薬事行政、法制度 第5回 ジェネリック医薬品およびバイオシミラー医薬品 第6回 有効性・安全性評価のための研究デザイン（1） 第7回 有効性・安全性評価のための研究デザイン（2） 第8回 有効性・安全性評価のための研究デザイン（3） 第9回 有効性・安全性評価のための研究デザイン（4） 第10回 有効性・安全性評価のための研究デザイン（5）</p> <p>※ 135分の授業を10回行います。</p>
授業方法	パワーポイントあるいは担当者が独自に作成したプリントを使って講義するが、一方向授業にならないように必要に応じて講義内容が正しく理解されているかを確認する目的で、学生とのディスカッションも交える。
準備学習（予習・復習等）	本学では、45時間の学修時間を必要とする内容の授業時間に1単位を設定することを標準としています。学修時間には、授業時間だけでなく、予習・復習等教室外での自主学習も含まれます。詳細は、授業中、別途指示する。
評価方法	・レポート[作品含む](100点)
地域との連携	
担当教員への連絡方法	岡村：臨床薬学研究室（総合薬学教育研究棟4階） 中村：薬理学Ⅰ研究室（研究管理棟2階）
受講上の注意	
卒業認定・学位授与の方針との関連	<p>（薬科学専攻 博士後期課程）</p> <ol style="list-style-type: none"> 知識・理解 1-3医薬品の適正使用のための「臨床系薬科学」に関する専門的な知識を有し、体系的に理解している。 技能・表現 2-3「臨床系薬科学」に関する研究を行うための技能を有し、新たな展開を図ることができる。 思考・判断 3-1「創薬系薬科学」、「生命系薬科学」あるいは「臨床系薬科学」分野の新たな問題・課題を見出すことができる。 思考・判断 3-2「創薬系薬科学」、「生命系薬科学」あるいは「臨床系薬科学」分野の新たな問題・課題の解決への方策を提示できる。 <p>（薬学専攻 博士課程）</p> <ol style="list-style-type: none"> 知識・理解 1-2医薬品の創製および開発のための「生命系薬科学」に関する専門的な知識を有し、体系的に理解している。 知識・理解 1-3医薬品の適正使用のための「臨床系薬科学」に関する専門的な知識を有し、体系的に理解している。 技能・表現 2-1「創薬系薬科学」に関する研究を行うための技能を有し、新たな展開を図ることができる。

コミュニティファーマシー特論 (2単位)	片岡 和三郎・笠井 眞二
----------------------	--------------

科目目的	薬剤師として薬局の在り方を考える。
到達目標	社会保障制度の中での薬剤師の役割を説明できる。
授業内容	本講では、医療行政の変化と保険薬局の経営の在り方について解りやすく講義する。薬局・薬剤師に関する法律、中医協医療経済実態調査、欧米薬局の例などを解説する。特に法律、制度に関しては、解釈の仕方まで一緒に考えていく。一方的な講義ではなく、討論形式も取り入れていきたい。
授業計画	第1回目 薬局・薬剤師に関連する法律1 第2回目 薬局・薬剤師に関連する法律2 第3回目 薬局管理薬 第4回目 社会保障制度 第5回目 医療保険 第6回目 薬剤経済 第7回目 医薬分業とかかりつけ薬局の意義 第8回目 保険薬局及び保険薬剤師療養担当規則 第9回目 薬局業務運営ガイドライン 第10回目 保険調剤報酬 第11回目 薬局製剤・学校薬剤師 第12回目 薬局・薬剤師に関連する医療裁判例1 第13回目 薬局・薬剤師に関連する医療裁判例2 第14回目 一般用医薬品・セルフメディケーション1 第15回目 一般用医薬品・セルフメディケーション2
授業方法	講義型授業
準備学習 (予習・復習等)	予習：次回授業で予定しているテキスト、プリントの範囲を読んでおくこと。 復習：授業中に行ったテキスト、プリントの範囲を復習しておくこと。普段より一般新聞で記載されている授業に関連する記事内容に興味を持つこと。
評価方法	・レポート[作品含む](100点)
教科書	日本薬学会 編/薬学と社会/東京化学同人
地域との連携	
担当教員への連絡方法	
受講上の注意	特になし

シラバスID : 14340080

医療保険制度特論（2単位）	片岡 和二郎
----------------------	---------------

科目目的	医療保険制度は医療政策の要である。我が国の社会保障制度の中での医療保険制度について学び、さらに諸外国の社会保障制度のなかの医療制度について修得し、国際比較を行いながら日本の制度の問題点を理解することを目的とする。
到達目標	1) 日本の医療保険制度の現状、問題点および課題等を説明できる。 2) 医療保険制度と診療報酬の関係を説明できる。 3) 社会保障制度の国際比較が説明できる。
授業内容	日米欧の社会保障制度および医療保険制度、さらに医療保険と診療報酬の関係について講義する。
授業計画	第1回 日本における社会保障制度の仕組み（1） 第2回 日本における社会保障制度の仕組み（2） 第3回 諸外国の社会保障制度 第4回 社会保障制度と医療保険制度（1） 第5回 社会保障制度と医療保険制度（2） 第6回 医療保険の成り立ち 第7回 医療保険の種類 第8回 諸外国の医療保険 第9回 医療保険と診療報酬 第10回 まとめ ※ 135分の授業を10回行います。
授業方法	講義型授業, 双方向授業
準備学習（予習・復習等）	本学では、45時間の学修時間を必要とする内容の授業時間に1単位を設定することを標準としています。学修時間には、授業時間だけでなく、予習・復習等教室外での自主学習も含まれます。薬事関係法規を勉強し理解しておく。
評価方法	・レポート[作品含む](100点)
地域との連携	
担当教員への連絡方法	臨床薬学教育センター（薬学部別館3階）
受講上の注意	
卒業認定・学位授与の方針との関連	<p>（薬科学専攻 博士後期課程）</p> <ol style="list-style-type: none"> 知識・理解 1-3医薬品の適正使用のための「臨床系薬科学」に関する専門的な知識を有し、体系的に理解している。 技能・表現 2-3「臨床系薬科学」に関する研究を行うための技能を有し、新たな展開を図ることができる。 思考・判断 3-1「創薬系薬科学」、「生命系薬科学」あるいは「臨床系薬科学」分野の新たな問題・課題を見出すことができる。 思考・判断 3-2「創薬系薬科学」、「生命系薬科学」あるいは「臨床系薬科学」分野の新たな問題・課題の解決への方策を提示できる。 <p>（薬学専攻 博士課程）</p> <ol style="list-style-type: none"> 知識・理解 1-2「実践医療薬学特論群」の科目では、レギュラトリーサイエンス、健康予防栄養学、コミュニティファーマシー、医療保険制度、漢方処方に関する高度な知識を学び、その臨床的な意義と必要性を理解することで、臨床での課題解決能力・研究能力の基盤を作ることができる。 知識・理解 1-3「薬物治療学特論群」と「実践医療薬学特論群」の講義内容を統合的に関連づけることで、幅広い臨床の課題について多角的な視野から理解し活動することができる。 技能・表現 2-1「講義」を通して、学問的視野が広がり、課題解決能力や研究実践の技能を向上させる素地ができている。

漢方処方学特論（2単位）	高 明
---------------------	------------

科目目的	漢方処方学は、複雑な病態に対応して一定の原則のもとに適切な薬物を選択し配合するものである。本特論は臨床によく使われる処方の組成原理、臨床応用ポイントを修得し、漢方処方の最新的研究動態を把握することを目的とする。
到達目標	1) 代表的な病証の診断、処方の応用、処方を構成する各生薬の効能およびその相互作用について理解できる。 2) 漢方処方の合方、漢方処方と西洋薬との相互作用および最新研究成果を例示できる。
授業内容	漢方医学の立場から、臨床によく見かける病証の診断、処方の応用、処方を構成する各生薬の効能およびその相互作用を解説する。さらに漢方処方の合方、漢方処方と西洋薬との相互作用および最新研究成果を紹介する。
授業計画	<p>第1回 漢方医薬学について (1) 世界における漢方医薬学 (2) 漢方医薬学と現代医薬学</p> <p>第2回 漢方解表剤の組成特徴、応用注意点と最近の研究成果</p> <p>第3回 漢方瀉下剤の分類、臨床応用と最新研究成果</p> <p>第4回 活血剤の生活習慣病予防、治療効果と最新研究進展</p> <p>第5回 漢方治風剤の概念、臨床応用と最新研究成果 (1) 消風散について (2) 釣藤散について</p> <p>第6回～第7回漢方補益剤の体質改善作用について (1) 補益剤の臨床比較応用 (2) 補血剤の最新研究成果</p> <p>第8回～第9回漢方和解剤の概念と臨床応用 (1) 小柴胡湯類処方の作用と副作用 (2) 逍遥散類処方の現代研究成果</p> <p>第10回 漢方医薬学の研究展望</p> <p>※ 135分の授業を10回行います。</p>
授業方法	講義型授業, 双方向授業
準備学習（予習・復習等）	本学では、45時間の学修時間を必要とする内容の授業時間に1単位を設定することを標準としています。学修時間には、授業時間だけでなく、予習・復習等教室外での自主学習も含まれます。漢方医学、漢方薬学の基礎知識を学んでおくこと。
評価方法	・レポート[作品含む] (60点) ・平常点等 (40点) 平常点等配点内訳：受講態度40点
地域との連携	
担当教員への連絡方法	東洋医薬学研究室（総合薬学教育研究棟4階）
受講上の注意	
卒業認定・学位授与の方針との関連	<p>（薬科学専攻 博士後期課程）</p> <p>1. 知識・理解 1-3医薬品の適正使用のための「臨床系薬科学」に関する専門的な知識を有し、体系的に理解している。</p> <p>2. 技能・表現 2-3「臨床系薬科学」に関する研究を行うための技能を有し、新たな展開を図ることができる。</p> <p>3. 思考・判断 3-1「創薬系薬科学」、「生命系薬科学」あるいは「臨床系薬科学」分野の新たな問題・課題を見出すことができる。</p> <p>3. 思考・判断 3-2「創薬系薬科学」、「生命系薬科学」あるいは「臨床系薬科学」分野の新たな問題・課題の解決への方策を提示できる。</p>

<p>卒業認定・学位授与の方針との関連</p>	<p>(薬学専攻 博士課程)</p> <p>1. 知識・理解 1-2「実践医療薬学特論群」の科目では、レギュラトリーサイエンス、健康予防栄養学、コミュニティファーマシー、医療保険制度、漢方処方に関する高度な知識を学び、その臨床的な意義と必要性を理解することで、臨床での課題解決能力・研究能力の基盤を作ることができる。</p> <p>1. 知識・理解 1-3「薬物治療学特論群」と「実践医療薬学特論群」の講義内容を統合的に関連づけることで、幅広い臨床の課題について多角的な視野から理解し活動することができる。</p> <p>2. 技能・表現 2-1「講義」を通して、学問的視野が広がり、課題解決能力や研究実践の技能を向上させる素地ができています。</p> <p>2. 技能・表現 2-3「論文作成研究」は、「講義」・「演習」と組み合わせることで、相乗的な研究能力の向上を図ることができる。</p> <p>3. 思考・判断 3-1「講義」を通じて幅広い臨床分野において、新たな問題・課題を見出すことができる。</p> <p>4. 態度・志向性 4-1自ら医療現場等で想定される課題を見出し、積極的に問題解決を図る態度が涵養されている。</p> <p>4. 態度・志向性 4-2グローバルな視野に立ち、医療現場等で指導的役割を果たす自立した教育研究者の素地ができています。</p>
-------------------------	---

シラバスID : 143600110

<p>卒業認定・学位授与の方針との関連</p>	<p>2. 技能・表現 2-3「論文作成研究」は、「講義」・「演習」と組み合わせることで、相乗的な研究能力の向上を図ることができる。</p> <p>3. 思考・判断 3-1「講義」を通じて幅広い臨床分野において、新たな問題・課題を見出すことができる。</p> <p>4. 態度・志向性 4-1自ら医療現場等で想定される課題を見出し、積極的に問題解決を図る態度が涵養されている。</p> <p>4. 態度・志向性 4-2グローバルな視野に立ち、医療現場等で指導的役割を果たす自立した教育研究者の素地ができている。</p>
-------------------------	---

シラバスID : 143600120

<p>卒業認定・学位授与の方針との関連</p>	<p>2. 技能・表現 2-3「臨床系薬科学」に関する研究を行うための技能を有し、新たな展開を図ることができる。</p> <p>3. 思考・判断 3-1「創薬系薬科学」、「生命系薬科学」あるいは「臨床系薬科学」分野の新たな問題・課題を見出すことができる。</p> <p>4. 態度・志向性 4-1医薬品の創製および開発、医薬品の適正使用に関わる専門的な教育・研究を行うことを志向する。</p> <p>4. 態度・志向性 4-2産学官において薬科学領域の発展に研究者・技術者として寄与・貢献することを志向する。</p>
-------------------------	--

シラバスID : 143600080

<p>卒業認定・学位授与の方針との関連</p>	<p>づけることで、幅広い臨床の課題について多角的な視野から理解し活動することができる。</p> <p>2. 技能・表現 2-1「講義」を通して、学問的視野が広がり、課題解決能力や研究実践の技能を向上させる素地ができています。</p> <p>2. 技能・表現 2-3「論文作成研究」は、「講義」・「演習」と組み合わせることで、相乗的な研究能力の向上を図ることができる。</p> <p>3. 思考・判断 3-1「講義」を通じて幅広い臨床分野において、新たな問題・課題を見出すことができる。</p> <p>4. 態度・志向性 4-1自ら医療現場等で想定される課題を見出し、積極的に問題解決を図る態度が涵養されている。</p> <p>4. 態度・志向性 4-2グローバルな視野に立ち、医療現場等で指導的役割を果たす自立した教育研究者の素地ができています。</p>
-------------------------	--

シラバスID : 143600090

<p>卒業認定・学位授与の方針との関連</p>	<p>症治療、薬効・毒性評価に関する高度な臨床的知識を学び、その臨床的な意義と必要性を理解することで、臨床での課題解決能力・研究能力の基盤を作ることができる。</p> <p>1. 知識・理解 1-3「薬物治療学特論群」と「実践医療薬学特論群」の講義内容を統合的に関連づけることで、幅広い臨床の課題について多角的な視野から理解し活動することができる。</p> <p>2. 技能・表現 2-1「講義」を通して、学問的視野が広がり、課題解決能力や研究実践の技能を向上させる素地ができています。</p> <p>2. 技能・表現 2-3「論文作成研究」は、「講義」・「演習」と組み合わせることで、相乗的な研究能力の向上を図ることができる。</p> <p>3. 思考・判断 3-1「講義」を通じて幅広い臨床分野において、新たな問題・課題を見出すことができる。</p> <p>4. 態度・志向性 4-1自ら医療現場等で想定される課題を見出し、積極的に問題解決を図る態度が涵養されている。</p> <p>4. 態度・志向性 4-2グローバルな視野に立ち、医療現場等で指導的役割を果たす自立した教育研究者の素地ができています。</p>
-------------------------	--

シラバスID : 143600100